

スニップカジノ 知事・市長に公開質問

スニップ・カジノと和歌山の会からマリーナシティへのIR誘致について、公開質問状を提出したので、公開質問状を提出したので、議事録に文書として2月28日の鳥畑と一静岡大学教授の学習会DVDが届きました。公開質問状は、マリーナシティへのカジノを含む統合型リゾート施設の誘致について、県は世界から観光客を呼び込み、そこから来

訪客を県内各地に送り出すという「観光ゲートウェイ（入り口）」構想を掲げているが、IRカジノを入りにして本県観光を国内外にアピールすることは、世界遺産の野山・熊野に代表される本県観光のイメージを損なうのではないかと指摘しています。またIRカジノの志上げを年間40億円・カジノ入場者数を

年間300万人から千人、この68%超が日本入を想定していることから、国民・県民の所得がキャンセルに使われることの経済的損失、地域の教育や文化、市民生活の安心に与える悪影響を計り知れないう指摘し、知事に対しては、項目38を市長に対しては10項目ほどの質問をしております。
※公開質問状を閲覧になりたい方は、私、ひめだまでご連絡ください。

ごんごんち日本共産党です

種苗法改定は農業を変質
アベ政権が今国会に提出した種苗法改定案に農業者・市民から異論が相次いでいます。
種苗法は、農作物の新しい品種を開発した人や

企業に「育成者権」を認め保護しています。同時に、農業者が収穫物の一部を種苗として使う自家増殖については「育成権が及ばない範囲」(21条)で「原則自由」としてきました。改定案は、この条項を削除し、自家増殖を一律禁止するといつものです。禁止対象となる「登録品種」を農家が

栽培する場合、種や苗木すべて購入するか、一定の許諾料を払って自家増殖するのを強いられ、農家は負担増となります。地域の土壌や気象に合った品種の選抜や改良などを担ってきたのは農業者です。種苗法改定は農業者や消費者を企業の下に押しこめるものです。

潮流

5.26 潮太陽王と称されたフランスのルイ14世は内政や外交も統治する宰相でもおりました。

状況のなかで国民の政治意識は高まり、政権の不誠実が不信をひろげています。内閣支持率は劇的に下落。苦難のもとで優雅にふるまう勲臣は「まるで貴族」と反感を買いました▼ルイ14世の言葉は「ルイ14世の言葉はほら、いつとさせる宰相を国会でも追及されたアベ首相。そのとき間違えて口にした「ルイ16世」は最後の絶対君主でした。在位中にフランス革命が起り、王政の崩壊は後世に大きな影響を与えた「人権宣言」につながりました▼為政者ではなく、国民の音が政治や社会を動かす。その基開けとなった革命を目の当たりにしたドイツの詩人ゲーテは「こんな言葉を残しています。」「ここから、そしてこの日から、世界史の新たな時代が始まる。」

赤旗 日刊紙 日曜版 3,497円/4 9330円/4